

福祉サービス第三者評価（事業プロフィール）

①第三者評価機関名

株式会社アミュレット

②施設・事業所情報

名称：常総広域障害者支援施設 常総ふれあいの杜	種別：生活介護・短期入所
代表者氏名：藤原 裕也	定員（利用人数）： 生活介護 76名（うち支援施設入所者 56名） 短期入所 4名
所在地：茨城県常総市大生郷町 1880	
TEL：0297-27-5016	ホームページ： http://www.kings-garden.or.jp/publics/index/35/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 2007年4月1日	
経営法人・設置法人（法人名等）： 経営法人…（社福）日本キングス・ガーデン 設置法人… 常総地方広域市町村圏事務組合	
職員数	常勤職員： 40 名 非常勤職員： 25 名
専門職員	サービス管理責任者 3 名 施設管理 1 名 栄養士 2 名 看護師 3 名
施設・設備の概要	（居室数）入所 56 床 （設備等）交流棟、多目的ホール、 機能回復訓練室、創作活動室、医務室、 短期入所 4 床 特浴室、個浴用浴室

③理念・基本方針

<p>理念</p> <p>「あなたは高価で尊い」</p> <p>日本キングス・ガーデンは聖書の御言葉を礎に障がいのある人や高齢者の尊厳を守り、地域社会に開かれた、愛と喜びと賛美にあふれる施設を目指し、ご利用者中心のケアを行い、平安と希望に満ちた人生を送れるように支援します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わたしの目には、あなたは高価で尊い、わたしはあなたを愛している。（イザヤ 43：4） ・最も小さき者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。（マタイ 25：40） ・その砂漠を主の園のようにする。そこには楽しみと喜び、感謝と歌声がある。（イザヤ 51：3） ・夕暮れ時に、光がある。（ゼカリヤ 14：7）

基本方針

- 1、「仕える」 日々の祈りを大切にし、喜んで利用者に仕える。
- 2、「利用者中心」 利用者中心のケアを行い、自立した生活ができるように支援する。
- 3、「尊厳」 利用者の自由と尊厳を守り、ありのままにその人を受け入れ、心に寄り添う。
- 4、「連携」 利用者の安全と健康を支えるため、職種間の連携を密にする。
- 5、「専門性」 誰もが安心して生活できるように、専門性をもって、地域社会に貢献する。

④施設・事業所の特徴的な取組

常総地方広域市町村圏事務組合より指定を受け、2007年8月からスタートし、家庭的な雰囲気大切に施設です。

支援を必要とされる身体・知的に障がいのある方が生活を共にし、生産的、創作的活動や機能訓練を通し生きがいのある「生活」を支援いたします。

当施設では、身体・知的に障がいのある方々が、一緒に生活しておられます。また、日中はご利用者の希望や状態に合わせ、リハビリレクリエーション、ハンドクラフト、菓子工房、自由散策、自然耕房の5つの班で活動を行っております。

日々の暮らしを、「生」きる「活」きる「参加」する、と捉え支援をさせていただいています。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和 3 年 7 月 12 日（契約日）～ 令和 3 年 9 月 17 日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	0 回（令和 年度）

◇特に評価が高い点

施設の方針として「生、活、参加」（生活の生、活動の活、社会参加の参加）を施設の基本方針に掲げています。日中活動の充実化に向けて、活動班をリハレク、ハンドクラフト、菓子工房、自由散策、自然工房の5班体制として、利用者の状態に合わせた活動への参加を通して施設の基本方針を体現しています。昨年度来のコロナ禍の影響で、各種活動についても規模を縮小していますが、コロナ禍でも楽しめる行事やレク活動を率先して取り入れ、利用者の楽しみを拡充させています。利用者アンケートの自由意見からも本人が毎日楽しそうに通っているのが安心していますや、全職員の丁寧な対応、毎日散歩にお連れしていただけていることに好意的な意見が散見されており、職員の前向きな活動が利用者の満足度向上につながっています。

施設内での活動の様子については広報誌のほか、SNSを通して積極的に発信し、施設の透明性を高めています。

昨年度来のコロナ禍の影響で、利用者や家族、職員ともに戸惑うことも多くありましたが、感染対策には特に力を入れて取り組んでおり、利用者の日々の導線に関しても、支援施設入所の利用者と在宅から通われる利用者の活動スペースを分け、感染のリスクを抑えています。今後に向けても感染予防及び防止対策を徹底し、利用者の安全確保に全力を注ぎそのうえで利用者が楽しめる行事やレク活動、さらには日中の各種活動についてもさらに充実化させていくことを検討しており、コロナ禍でも快適に楽しく生活を送ることができるよう職員が一丸となり前向きに取り組んでいます。

◇改善を求められる点

防災防犯委員会が中心となり、防災に関するマニュアル作成及び見直し、さらには防災訓練の実施、内容の充実化に向けた協議を行っています。災害を想定した訓練については毎月、火災や地震、水害を想定した訓練を実施しています。施設周辺の水害状況等についてもハザードマップで確認しています。また台風や大雨などに備え、職員及び自治体との緊急連絡網についても整備しています。今後に向けては、災害発生後、事業を継続していくための具体的な計画「事業継続計画（BCP）」の作成を期待します。作成にあたり、災害発生時自力で出勤できる職員がどの程度なのか等も再確認し、災害発生後の職員体制、具体的なサービス提供について、さらには指定感染症の罹患時における事業継続のあり方などさらに明確化できることを期待します。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価を、初めて受けさせていただくことになり、想定していた以上にたくさんのごことに気づかせていただきました。また、アンケートの内容も含めて、方針の三本柱としている「生（生活）、活（活動）、参加（社会参加）」を高く評価していただいたことに大変感謝しています。

特に利用者アンケートに、本人が毎日楽しそうに通っている等の好意的な意見があるとの事に喜びを感じています。

また、先日思いがけず火災報知器の不具合による誤報が発令し、さっそく今後の対応策を消防署や関係機関と、連携しながら防災防犯委員会による災害対策の見直しを施設全体で進めています。さらに今後は、ご指摘いただいた「事業継続計画（BCP）」の作成を法人と連携しながら進めていきます。

コロナ禍による新しい生活様式の中での日々になりますが、一日一日を大切に、ご利用者の笑顔のために、この評価内容を維持していくことができるよう皆で精いっぱい努力していきたいと、今後ともよろしくお願いします。